

卒業論文のための調査 ミャンマー 2015.9.15～9.21

梅瀬ゆりえ 4年（健康科学コースから看護学コースに変更）、精神衛生・看護学教室、川上憲人教授引率

渡航先での活動内容

「新興国では本当に経済成長によって現地の人々は幸せになっているのか、貧困格差が拡大することで以前より幸せでないと感じる人々が多いのではないか」という疑問から、卒業論文のテーマを「新興国における貧困格差の拡大と精神疾患の関連」と設定しました。

global dataの解析やその他データからの文献的調査を主に行い、今回は現場理解のための質的情報収集を行いミャンマーへ渡航しました。

ここ10年間での変化が著しいため、主に10年前と現在を比べてどのように変化したか調査しました。

訪問先

- ・薬物使用者の支援活動を行う現地NPO法人SARA
- ・ヤンゴン公衆衛生大学院学長
- ・現地NPO法人TERRA PEOPLE ASSOCIATIONで働く日本人
- ・ヤンゴンで農業館を経営する、webサイトThe Farmerの記者
- ・ヤンゴン市街地
- ・バテイン州の農村
- ・ティラワ工業団地



目的を達成できたか

【都市部】

ヤンゴン清掃業者の契約社員

「数十年前からヤンゴン市街地で生活し、当時は賃金の低さにより生活が困窮していた。現在は最低賃金上がり生活のスタンダードは上昇した。しかし階級は貧困層のまま変わっていない。それに比べ富裕層は更に富裕となって差が開いた。自分は今も昔もこれより少しでも良い生活がしたいという気持ちしかない。」

【農村部】

バガン州の農村でもリッチな方。

「生活に変化なし」

その他の農村地域は比較的貧しい

「ミャンマーの経済成長に伴い進出してきた中国人ブローカーに土地を売却。長期的な計画を立てないままにお金を手に入れ、携帯電話を購入するなど湯水のように使用し、1年もたないうちに手持ちのお金が尽きる。耕す土地もなく収入が無くなったため、」出稼ぎに出るか小作農家となることを余儀なくされている。」



目的以外に学んだ点、反省点

ミャンマーへ渡航したのは選挙が行われる前の、最も張りつめた空気の漂う時期でした。特に軍事政府は国内のマイナスな面を国外に対して発信されることへの規制が厳しく、調査を慎重に行わなければならない上に卒論の内容に今回の質的調査で得た情報を載せてはならないことになりました。今回のようなテーマを扱う際は、対象国の選定をより慎重に行わなければならないと反省しました。

グローバルな視点とは何か

ただ英語が喋られれば良いというわけではないのですが、まず意思疎通するための手段をもつことが重要だと感じました。その上で、現地の生活様式や食事、文化を受け入れ、同じようにして見ることさらに視野が広がると感じました。

将来の進路決定へどう影響したか

元々途上国で働くことに興味があるにもかかわらず実際に現地へ行ったことがありませんでしたが、今回ミャンマーへ渡航してそこで働きたいという気持ちを一層強く持つようになりました。

後輩へのアドバイス

今回私はほぼ途上国の一人旅状態だったのですが、現地の様々な方の援助を受けていただいたの目的を達成して無事帰国することができました。皆さんも少しでも興味があったら臆せず挑戦してもらいたいです。

研修支援制度に望むこと

海外に興味のある学生が現地で学ぶ機会を得ることができる素晴らしい制度だと思うので、ぜひ今後も続けてほしいと思います。